

実施校	柏市立手賀西小学校
指導者	仁木 朋美
学年 / 教科	1年 / 生活科
題材(単元)名	はなや やさいを そだてよう こんどは なにを そだてようかな
育みたい児童の姿	1 だまされない消費者 ② 自立した賢い消費者 3 持続可能な社会に貢献できる消費者

1. 題材(単元)の目標

- 春に朝顔を育てた経験をもとに，秋まきの植物に関心を持ち，意欲をもって世話をすることができる。
- 買い物に関心を持ち，買いたいものがある時に，欲しい理由を伝えられたり，買ったものを大切にしたりする態度を育む。

2. 指導計画

時	指導内容
1	朝顔を振り返り，秋に育てる球根を決める。
2 (本時)	球根を買うために，家の人にどのように伝えるかを考える。
3	家の人と球根を買いに行く。
4	球根を植える。
5	活動の振り返りを行う。

3. 本時

(1) 目標



- 球根の買い物体験に関心を持ち，買いたいものがある時は，欲しい理由を考えて，伝える大切さに気づくことができる。

(2) 展開 (2/5)

時配	指導内容 ● 学習活動 ○	教師の支援 ■ 評価 ◇	備考
見出す 7分	○ 本時の学習活動について知る。 ○ 秋に植える球根を家の人と買いに行く事を知る。	■ 買い物の場面を思い出させ、球根を買う為に、家の人にとどのように伝えたらよいか、見通しを持たせる。	掲示物
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> (学) きゅうこんをかうために、いえの人へどのように伝えたらよいか、かんがえよう。 </div>			
自分で取り組む 13分	○ 家の人への伝え方を考えて、ワークシートに書きこむ。	■ 家の人への伝え方がわからない児童へは、最初に提示した、よくない例に戻って考えさせる。 それでも難しい時は、 () 空きのプリントを用意しておき、それを元に考えさせる。	ワークシート
広げ深める 10分	○ 2人組になり、自分の考えた伝え方を聞き合う。 ○ 自分の考えた伝え方に付け加える。	■ 友達の伝え方を聞き、良い表現などがあつたら、参考にして書き足してもよい事を知らせる。 ◇ 球根の買い物体験に関心を持ち、家の人にとどのように伝えたらよいか、進んで考えている。 (ワークシート・発言)	ワークシート
	○ 先生を家の人に見立てて、考えた伝え方で話す。	■ 買いたい物がある時は、何を伝える事が大切なのかを確認する。	ワークシート

ま と め あ げ る 15 分	○ 振り返りを行う。	◇ 買いたい物がある時は， 何をどの位の他に，欲しい理由を伝える事が大切な事に気づいている。 (発言・ワークシート) ■ 授業後は，実際に家の人に話し，球根を買いに行く事を伝える。
---------------------------------------	------------	---

4. 使用教材・資料

生活科教科書「あたらしい せいかつ」(下)

5. 成果と課題

(1) 成果

導入時に，普段の買い物場面を思い出させる事で，学習活動では，自分事として意欲的かつ具体的に考える事ができた。

(2) 課題

- ・ 伝えるべき事の中で必ず言わなければならない事（個数・何を・理由など）を提示して，自分の考えた言葉と照らし合わせる事ができれば，何を伝えるのが大切なのがより分かりやすい。また，今回のみの活用ではなく，他の場面でも使えるような汎用的な話型のようにできると，さらによい。
- ・ 今回は実施ができなかったが，可能ならば買い物の体験を行い，学習したことを活用する事で，より学びを深める事ができたのではないか。

6. 付録

○使用したワークシート（Google の JamBoard を使用）

《そだてる はなを きめよう。》

◎なぜ きゅうこんを そだてるの？

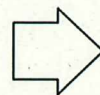
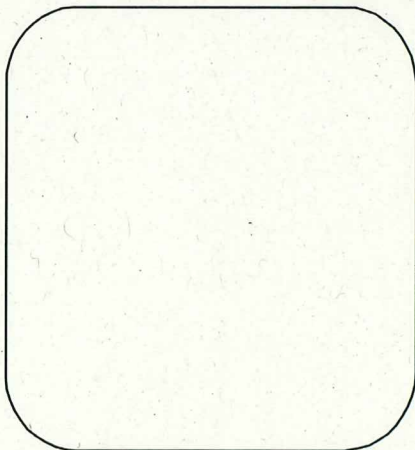
①きれいな はなをさかせたい。（じぶんのため）

②らいねんの 1ねんせいをきれいなはなで むかえたい。



うえられるもの……チューリップ・ヒヤシンス・クロッカス

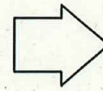
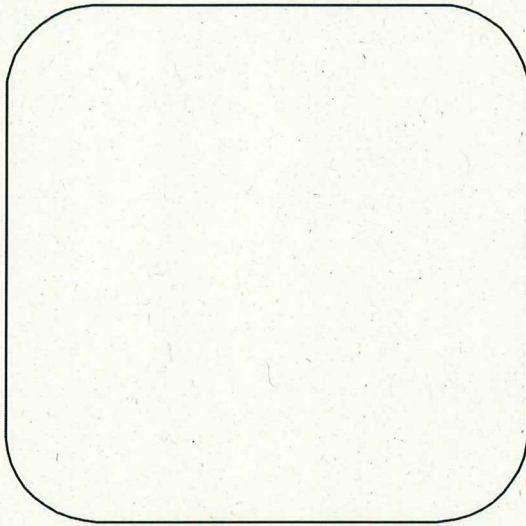
かいたいものが あるとき、いえの人に なんてつたえる？





◎きゅうこんを かいにいきます。

いえの人へ なんて つたえたらいいかな？



かいたいものが あるときに，つたえなきやいけないことは…？



実施校	柏市立旭小学校
指導者	細矢 留美
学年 / 教科	4年 / 道徳
題材(単元)名	情報モラル やめられない?とまらない?
育みたい児童の姿	1 だまされない消費者 ② 自立した賢い消費者 3 持続可能な社会に貢献できる消費者

1. 題材(単元)の目標

○よく考えて行動し，節度ある生活をしようとする意欲を育てる。

○度を越すことなく，ルールをきちんと守ろうとする。

2. 指導計画

時	指導内容
1 本時	情報モラル やめられない?とまらない?

3. 本時

(1) 目標

単元の目標に同じ

(2) 展開

時配	指導内容 ● 学習活動 ○	教師の支援 ■ 評価 ◇	備考
見出す	● 本時の課題をつかむ。	■ 何かに熱中しすぎて困った経験について話し合う。	

10分	<p>○スマートフォンと新しいゲーム機をそれぞれ手に入れた「みお」と「はると」2人の4コマ漫画を提示する。</p>		
<p>2人にはどんな困ったことが起きるのだろう。</p>			
自分で取り組む 15分	<p>●自分の考えを持つ。</p> <p>○2人のその後にどんな困ったことが起きるか予想し、5コマ目を考えて絵や言葉で表現する。</p>	<p>■予想される困ったことを絵や文章などで表現するようにする。</p> <p>◇2人のその後を考えることができたか。</p>	
広げ深める 15分	<p>●グループ活動をする。</p> <p>○グループで紹介し合ったあと、学級全体で共有する。</p>	<p>■3～4人グループになり、自分の考えを紹介し合う。</p> <p>◇グループに自分の考えを紹介できたか。</p>	
まとめあげる 5分	<p>●まとめをする。</p> <p>○自分の生活の振り返りをする。</p>	<p>◇自分で決めていることや日々の生活を振り返ることができたか。</p>	

4. 使用教材・資料

教科書の拡大イラスト：東京書籍 新しいどうとく 4

5. 成果と課題

(1) 成果

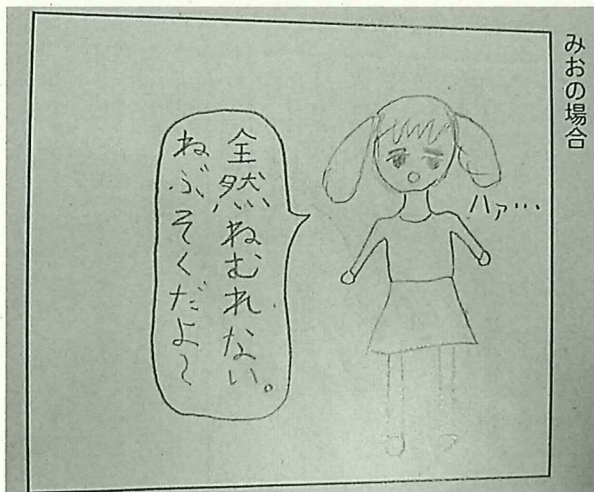
児童の身近な経験から2つの場面それぞれについて、近年、一家に1台以上普及している携帯電話やゲーム機がいつでも手に取って使える時代になり、限度を考えながら使用するということを改めて考えることができた。

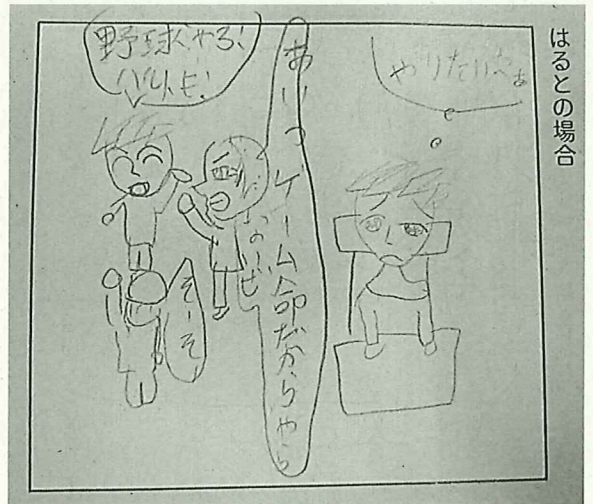
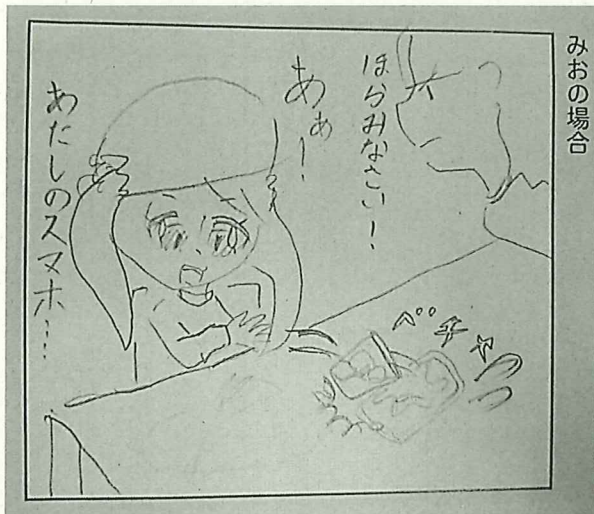
(2) 課題

学級で情報モラルのアンケートをとった結果、自分専用の携帯電話を所持している児童が50%を超えた。高学年になるとSNSでのトラブルが急増することは以前から問題視されているが、今後、低年齢化することは必至である。すぐにインターネットを介して世界に発信できる端末を手に入れた今、使い方を一歩間違えると怖いことになるということを知ってもらえればと思う。

6. 付録

< 児童が予想した5コマ目 >





実施校	柏市立酒井根小学校
指導者	川股 千秋
学年 / 教科	6年 / 算数科
題材(単元)名	データの特徴を調べて判断しよう
育みたい児童の姿	1 だまされない消費者 ② 自立した賢い消費者 3 持続可能な社会に貢献できる消費者

1. 題材(単元)の目標

○いくつかの商品のデータを様々な視点で捉え分析し、自分にとってよりよい選択ができる力を養う。

(消費者教育の目標)

○統計的な問題解決の方法について理解し、目的に応じてデータを集め分類・整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断したり、その妥当性について考察したりする力を養うとともに、統計的な問題解決の過程について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。

(算数科の目標)

2. 指導計画

時間	指導内容
1 本時	代表値としての平均値について理解するとともに、平均値以外の視点でデータの特徴や傾向に着目することの大切さに気付く。
2	ドットプロットに整理する方法や代表値としての最頻値について理解する。
3	データを度数分布表に整理する。
4	データを柱状グラフに整理して、データの傾向を読み取る方法を考える。

5	代表値としての中央値を理解する。
6	問題に対する結論を出し，考察を考える。

3. 本時

(1) 目標

- 代表値としての平均値について理解するとともに，平均値以外の視点でデータの特徴や傾向に着目することの大切さに気付く。(算数科)
- 商品を購入する際，多面的な視点から考察し，購買目的に沿った商品を選ぶことができる。(消費者教育)

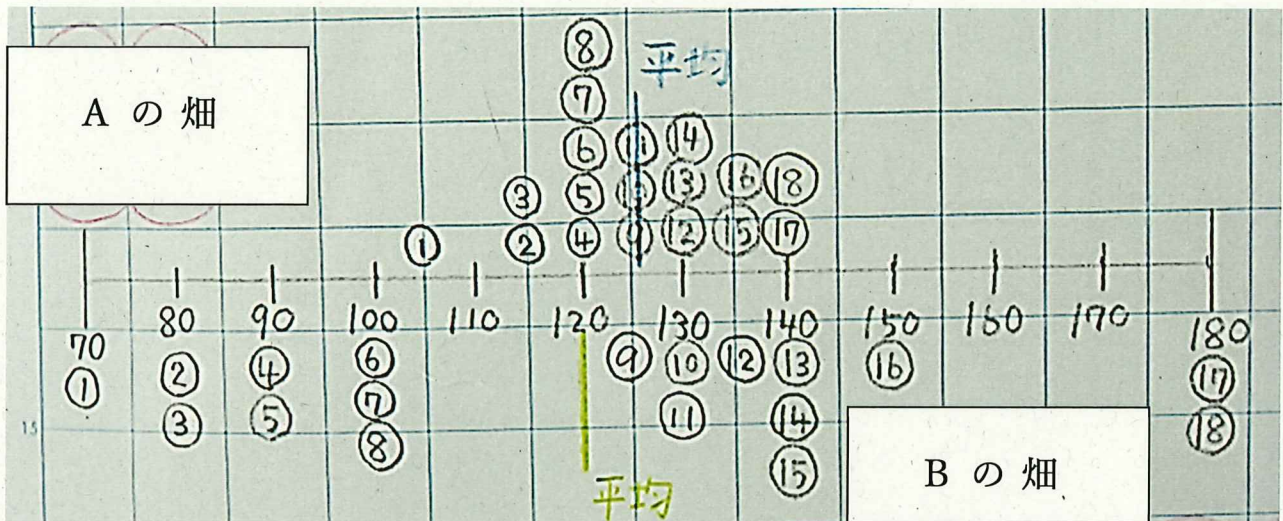
(2) 展開 (1/6)

時配	指導内容 ● 学習活動 ○	○ 予想される反応	教師の支援 ■ 評価 ◇
見出す 5分	1. 課題を提示する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> (問) ジャがいもを 360g 買います。 どちらの畑でとれたジャがいもを買いますか？ </div>		場面設定を丁寧に確認し，全員が遅れないように配慮していく。
広げる 10分	2. 素材を提示する A 畑 (重さが平均に近い) B 畑 (重さがバラバラ) 3. ジャがいもの平均を求める。	○ 1 個いくらですか？ ○ 値段はいくらですか？ ○ 20 個で何グラム？ ○ 重さで比べるとしたら，どちらも同じだよ	■ 子どもたちが見たいといった情報から提示していき，その都度どちらを買うかの判断を聞く。 ◇ 代表値としての平均値について理解する。 <知識・技能>

	<p>4. 実際に3個ずつ取って360gになるか試していく。</p>	<p>○どちらも平均 120g だね。</p> <p>○じゃあ3個取れば360gだ。</p> <p>○今回はAのほうか360gに近いね。</p> <p>○あれ？またAのほうか近いよ。</p>	<p>■ 数値設定を工夫し、どのような取り方をしてもAが360gに近くなるようにする。</p>
<p>深める 20分</p>	<p>5. データの情報を整理する。</p> <p>6. 平均値以外で比べる方法を考え、共有する。</p>	<p>○どちらも平均 120g なのになんでAのほうか360gに近づくのだろう？</p> <p>○平均以外で比べないとだめなんじゃない？</p> <p>○平均値だけではなく、色々な見方から比べたほうがいい。</p> <p>○小さいほうから並べてみると少しわかったよ！</p> <p>○なんかAの畑のじゃがいものほうがバランスがいいね。</p>	<p>◇ 平均値以外の視点でデータの特徴や傾向に着目して考えている。 < 思判表 ></p>
<p>まとめあげる 10分</p>	<p>7. 振り返る 商品を買うにあたって注意することを軸にする。</p>	<p>○平均値よりもバランスのほうが大切だと思った。</p> <p>○もっとはっきりわかる方法がないのか考えたい。</p>	<p>◇ 商品を購入する際、多面的な視点から考察し、購買目的に沿った商品を選ぶことができる。 < 消費者教育的視点 ></p>

4. 使用教材・資料

○ 実際に使ったじゃがいものデーター



5. 成果と課題

(1) 成果

- ・「360gのじゃがいもを買う」という問題提示から、子どもたちは様々な消費者教育的な視点から考えていた。
- ・「平均」という表記は、自分たちがイメージしているものと乖離していることを実感できていた。

(2) 課題

- ・前半が消費者教育，後半は算数というように，授業の中でうまく織り交ぜることができなかった。
- ・「データの活用」の学習をした後に，消費者教育的な教材で授業するとより効果的だと思った。

実施校	柏市立高柳小学校
指導者	横山 あずみ
学年 / 教科	6年 / 家庭科
題材（単元）名	9 持続可能な社会を生きる
育みたい児童の姿	1 だまされない消費者 2 自立した賢い消費者 ③ 持続可能な社会に貢献できる消費者

1. 題材（単元）の目標

- 「SDGs」について理解し，自分の生活とのつながりを考える。
- 物の使い方や環境に配慮した生活について，自分の生活の中から課題を見出し，解決に向けて実践し，振り返ることができる。（自分の実践が「SDGs」のどこにつながっているのかも含めて振り返る。）
- 環境に配慮し，生活をよりよくしようと自分にできることを考える。

2. 指導計画

時	指導内容
1 本時	「SDGs」とは何か知り，自分たちの生活とのつながりを考える。
2	教科書 P124 のフォトランゲージをもとに，生活と環境のつながりを考える。自分の生活の中の課題を見出し，環境を配慮するために自分が調べたいことを決めて調べる。
3	自分が調べたことをもとに，環境を配慮した実践計画を考え，実践する。
4	自分の実践を報告・交流し，振り返る。

3. 本時

(1) 目標

- 「SDGs」とは何かを理解する。
- 「SDGs」と自分たちの生活とのつながりを考える。

(2) 展開 (1/4)

時配	指導内容 ● 学習活動 ○	教師の支援 ■ 評価 ◇	備考
見出す 10分	○「SDGs」についての動画をみる。		動画①
	「SDGs」について知り，自分の生活とのつながりを考えよう。		
自分で取り組む 10分	○「SDGs」について知る。 ・資料だけでなく，実際にユニセフのHPを見て「SDGs」について理解を深める。	■資料だけでなく，実際にクロムブックでユニセフのHPを見る時間もつくる。 ◇「SDGs」とは何か理解している。	資料① ユニセフHP
広げ深める 15分	○「SDGs」と自分たちの生活とのつながりを考える。 ・「なぜ地球環境を守らなければいけなくなったのか」について，今の自分たちの生活を振り返りながら班ごとに考えて，発表する。	■資料②の「地球環境を守ろう」に注目して，自分たちの生活にどのようなつながりがあるかを考える。 ■「なぜ地球環境を守らなければいけなくなったのか」という視点を与えて班ごとに話し合いをする。	資料②

		◇「SDGs」と自分たちの生活とのつながりを考えている。	
ま と め あ げ る 10 分	○「SDGs」についての動画をみて，次回の見直しをもつ。	■「SDGs」をもとに，自分の生活の中で課題を見つけて，課題解決することを伝える。	動画②

4. 使用教材・資料

- 動画①ユニセフ

『世界に広めよう「持続可能な開発目標（SDGs）」』Ⅰ

- 動画②ユニセフ

『世界に広めよう「持続可能な開発目標（SDGs）」』Ⅲ

<https://www.unicef.or.jp/sdgs/movie.html> [QRコード①]

- 資料①フリーザチルドレン SDGs一覧表

<https://ftcj.org/we-movement/sdgs> [QRコード②]

- 資料②ユニセフ副教材

「私たちがつくる持続可能な世界」～SDGsをナビにして～

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/03.html> [QRコード③]

①



②



③



5. 成果と課題

(1) 成果

- ・「SDGs」という言葉は，聞いたことのある子どもが多かったが，どんなものなのかまでは理解していなかったため，ユニセフのサイトや動画を見ることで，内容を理解することができた。
- ・項目が17個ある中で，地球環境を守る観点に絞って考えることで，自分の生活とのつながりを考えやすかったように感じる。
- ・自分たちの生活の中から課題点を見つける際に，まずは班ごとに話し合いをしたおかげで，様々な観点（水問題，ごみ問題，電気について，食品ロス，プラスチック問題など）の課題を出すことができた。
- ・課題解決に向けての手立てについて，クロムブックを活用して調べ，自分にできることはどんなことがあるのか具体的に考えさせることができた。（節水，節電，食べ残ししない，マイバッグの使用など）

(2) 課題

- ・当初の計画では，実践計画を考え，実践して振り返る活動を考えていたが，子どもからでてきた内容や時間の関係で実践して振り返ることができず，行動宣言で終わってしまった。
- ・自分たちの生活とSDGsとのつながりをもっと感じさせるために，自分の行動宣言がSDGsのどこにつながっているのか，もう少ししていねいに確認するべきだった。

実施校	柏市立柏第三小学校
指導者	伊藤 竜二
学年 / 教科	6年 / 道徳
題材(単元)名	気をつけようネットトラブル
育みたい児童の姿	①だまされない消費者 ②自立した賢い消費者 ③持続可能な社会に貢献できる消費者

1. 題材(単元)の目標


○善悪の判断, 自律, 自由と責任

自由の大切さを理解し, 自他の自由を尊重するとともに, 責任ある行動について自律的に判断する力を育てる。

2. 指導計画

時	指導内容
1	気をつけようネットトラブル

3. 本時

(1) 目標 

インターネットのトラブルについて知り, 正しく活用しようとする態度を育てる。

(2) 展開

時配	指導内容 ● 学習活動 ○	教師の支援 ■ 評価 ◇	備考
見出す	○インターネットを利用した経験を共有する。	■インターネットの使い方について学習することを説明する。	
5分	インターネットはどのように活用すればよいだろう。		

<p>自分 で 取 り 組 む 1 5 分</p>	<p>○ スライドを見る。 ○ アイテムの課金やネットショッピングでお金を使ってしまい、トラブルになった事例を知る。 ○ どのところが良くなかったのか、ワークシートに記入する。</p>	<p>■ インターネットの使い方の中でも、お金関係のトラブルであることを確認する。 ■ 同じような経験をしそうになったり、聞いたりしたことがないか、確認する。</p>	
<p>広 げ 深 め る 1 5 分</p>	<p>○ トラブルの原因になった理由について意見交換する。 ○ トラブルを防止するためにどのようにすれば良かったのかを話し合う。</p>	<p>■ 良くなかった点を記録させるようにする。 ■ 「○○がよくなかったから、△△をするとよい。」というように、原因と改善策を発言させる。</p>	
<p>ま と め あ げ る 1 0 分</p>	<p>○ インターネットを使うときに気をつけるべきことをワークシートにまとめる。 ○ 全体で交流する。 ○ 教師の説話を聞く。</p>	<p>◇ インターネットを正しく活用しようとする意欲が見られた。</p>	

4. 使用教材・資料

パソコン，プロジェクター

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・授業を通して、スマートフォンやパソコン、ゲームなどの使い方を見直すことができた。
- ・お金の大切さや、お金を使うことに対しての責任について深く考えている児童がいた。
- ・「課金をしなければ良い。」という意見だけではなく、「制限を設けたり、親に相談したりすることが重要。」という意見がでた。

(2) 課題

- ・スライドのみで、映像がなかったため、内容を理解できていない児童もいた。
- ・いくら課金しても良いという家庭があるため、保護者の理解も必要であると感じた。